

異国人へ返答の心得

清国曆咸豐四年、和曆安政元年（一八五四）、琉球王国の王府から宮古・八重山島の両先島在番方へ通達したとされる文書。

米国ペリー艦隊を初め、欧米各国の「異国船」が琉球近海に出没する事態となり、もし異国人と接触して、異国人から琉球について質問があった場合、どのように答えるかをまとめた、いわば「想定問答集」である。

この通達は先島の在番方だけでなく、王府の主要役所へも配布し、琉球王国全体として異国人に備えようとするものであり、先年「午年七月」に通達したものを再度徹底のために布達したものと考えられる。当時の琉球の状況や、その背後の薩摩藩の意向を窺う事が出来る史料である。

①

異国人へ返答の心得

在番方

異国人へ返答の心得  
琉球の産物相尋候はゞ

黒砂糖 粟 焼酎

■（綿）布 蕉布 麦

裨（黍）類 豆 唐芋 米

但穀物類は出来高少、年々

度佳刺嶋人持渡候を買取致用弁候

一 金銀出所相尋候はゞ

答

琉球の儀、金銀銅鉄、一切出産無之候付、簪調用等、中國・度佳刺嶋人より相求申事候

②

一 宝嶋人持渡候品物相尋候はゞ

米 木板 木綿 鉄類但持渡高少

鍋釜 きせる 多葉粉入 扇子

蠟燭 炟灯類 下駄 紙 髪附 筆

墨 茶 多葉粉 昆布 菜種子油

一 上様御歳相尋候はゞ、御三拾二と相答候事

一 唐へ進貢の船数、并貢期等相尋候はゞ

一 実成の通相答候事

一 大和船相尋候はゞ、日本の属嶋宝嶋

一 船と相答候事

一 楫船・馬艦船相尋候はゞ、属嶋の嶋々へ

一 罷渡候段相答候事

一 風俗相尋候はゞ、往古より唐へ進貢相勤

一 聖賢の書を学び、平常礼儀大切に

一 仕、無礼の者は甚相悪み候段相答候事

一 女人の事相尋候はゞ、節義の慎何より以大切

一 仕、壮年の頃夫を失候ても再嫁無之段

一 相答候事

③

一 問、度佳刺嶋船、毎年何艘罷渡候哉

一 答

一 毎年拾三四艘程琉球に罷渡候

一 附 両先嶋行大和船相尋候はゞ、當嶋

一 の儀、琉球へ年貢積船作事調兼、

一 每歲琉球へ罷越候度佳喇嶋船の内相雇、致運送候段相答問、右船琉球往還時節相尋候はゞ

答

毎年春の頃渡来、間に一、二艘は秋冬の頃致来着候節も有之候。帰帆は夏の頃にて候得共、順風無之秋冬に懸致帰帆候節も有之候

一 問、琉球船、右嶋へも罷渡候哉

答

年柄次第、國用不足の品求用、又は兼て借米有之、為返弁砂糖・焼酎  
其外雜物等積入、或は一艘、或は二三艘

④

差渡候時も有之候

一 度佳喇嶋人、琉球へ公館相立置

候哉と相尋候はゞ、公館相立候儀は法度事にて、平日船住にて致商売候段相答候事

附 病氣又は何歟差支、滞在仕度申出

候方は、那霸官承届相立滞在

差免、取締向旁那霸官請込に候

一 右商船帰帆の節、何品買渡候哉と問候はゞ、

黒砂糖・焼酎・蕉布類・焼物類と相答

一 問、唐へ進貢の品相尋候はゞ

答

銅・錫・硫磺三色相限候。銅鉄（錫力）は専度佳喇嶋人より買取候。硫磺は琉球外嶋に少々出来候。其分にては及不足候付、是又

一 度佳喇嶋人より買取候等答合申候問、進貢・接貢船より唐へ持渡候品、何品にて候哉

⑤

答

一 昆布・寒天・ふかのひり持渡可申候右品々出所相尋候はゞ、ふかのひりは国産も有之候得共僅計にて、多分は度佳喇嶋人より買取、昆布・寒天は専度佳喇嶋人より買取候段相答候事

一 問、唐より持渡候品、何色にて候哉

答

冠・船・服用の糸・反物・薬種・砂糖・茶杯買渡申候

一 問、進貢使は何官より被差遣候哉

答

正三本耳目官より被差遣候

一 問、從

皇帝御賜物何々にて候

答

糸・反物、并器物等にて候

一 問、年々渡唐船より買渡候品物、國中

⑥

までにて相捌候哉

答

拂物

中國への貢物・拂物求用、度佳喇嶋人へ相渡、國用込は至て僅計にて候

一 琉球は何にて交易仕候哉、と問候はゞ、穀物又は雜物にて取遣仕、尤錢も有之候得共、

至て不自由有之、日用野菜類買入用は兎哉角取遣仕、尤嶋々は穀物

又は雜物計にて取遣仕候段相答候事

一 錢出所相尋候はゞ、度佳喇嶋人共身廻遣用、時々持渡候段相答候事

一 傾城罷居候哉と相尋候はゞ、琉球又は嶋々にも罷居不申と相答

一 問、政事に被相携候官人衆相尋候はゞ、  
答

一 總理官御一人、布政大夫御三人、度支官三人、耳目官四人、替議官八人

一 問、琉球は孔孟の道を尊信の由候処、出家も段々罷居候様に見及候、仏法も

⑦ 尊信の儀にては無之候哉

答

一 中國の風俗に習、古より出家罷居候何ぞ人々佛道を信候儀にては無之候

一 波龍舟の事相尋候はゞ、年柄次第為祈願漕候段相答候事

一 御當地の儀、糸・反物出產無之段、異国人へ被御達置候付、綿子紬等出来候段

一 相聞へ候ては差障候付、其心得可有之候問、塩焔(硝)は琉球にて出来候哉

答

一 琉球にては出来不申、進貢船・接貢船持方少々づつ、度佳喇嶋より相求候

一 問、琉球諸船の類、大抵一樣に有之候処、與論嶋・永良部嶋・徳之嶋・大嶋・鬼界嶋

杯の船形は日本の船形に不相替候儀、何様の訳にて候哉

答

⑧ 船作事の儀、府々嶋々、心次第の事にて、住古は諸国の船見合、心に叶候

法式稽古仕、致船作事用得來事候處、大明洪武年間、於唐船作事

致稽古、多分其船形に引改置候由、與論嶋・伊良部嶋・徳之嶋・大嶋・鬼界

嶋は、今迄跡々の通、日本の船形にて候琉球は度佳喇嶋計致取合、日本

へも交通無之候哉

答

一 度佳喇嶋計致交易、日本へは一切取合不致候

一 問、度佳喇嶋は隣嶋も有之候哉  
答

一 度佳喇嶋は七ヶ嶋有之、右嶋は琉球へ罷渡、品物貿易いたし、別て

一 重宝相成候付、往古より右七ヶ嶋を宝島と唱申事候。右外隣嶋も有之

一 由候得共、何ヶ嶋、又は嶋名等存不申候問、度佳喇嶋へ當地より里数如何程

有之候哉

答

一 委敷不承候得共、大抵琉球里積に、

一 貳百里余有之由

一 嶋々より琉球への里数相尋候はゞ、実成の通相答候事

一 問、琉球三拾六嶋の内、大嶋・徳之嶋・鬼界嶋・與論嶋・永良部嶋は、日本の拘に相成候由承候、実正其通候哉

答

三十六嶋は往古より琉球属嶋にて、日本の拘相成候嶋は曾て無之候

一 問、右五島の者、姿は琉人の事候得共、実は日本の拘相成居候段、委細書物相見得候処、何様の儀にて偽を構候哉

答

琉球は兼々申入候通、至て不自由の

⑩

小國、殊風早の災殃不相絶、其節々度佳喇嶋より借米等を以致助命

来、連々屯居候借米、及太分返弁の術不能力、慣用とゞ右五島の産物、直に

度佳喇嶋へ致取納呉度致約定候付、

當分は度佳喇嶋人より諸事致差引候、

兎角此儀を間違候て、日本の拘と

書物に相載為申にて可有之候

一 問、右五島の産物は何々にて候哉

答

大抵琉球同前の産物にて候

一 問、琉球砂糖出来高、何程にて候哉

答

出来高存不申候

一 總理大臣 正一品

一 布政大臣 従一品

一 紫金夫 正二品

一 耳目官 正三品

⑪ 替(讚) 議官 正四品

一 都通官 正五品

一 撰政三司官衆、御名字唐御名

一 相尋候はゞ、左の通相答、御書院當は

一 実名の通相答候事

一 總理大臣

一 古謝按司

一 尚珪桂

一 布政大夫

一 棚原親方

一 馬良才

一 安室親方

一 毛鳳鳴

一 座喜味親方

一 向永保

一 琉球旅行の家やまと風見旗立置候を

一 相尋候はゞ、いつ方へ渡海の節は留王の者共

一 風見用に、琉球船、或は度佳喇嶋の船、

一 或は鳥魚の類等にて、面々好次第、家内へ

一 風見簾相立候風俗の段相答候事

⑫

一 やまと人の塚相尋候はゞ、度佳喇嶋人の

一 塚と相答、右碑文に薩州杯と書記

一 置候を相尋候はゞ、彼島地名にて可有之哉、

一 存不申段相答候事

一 御大子尋上候はゞ、去々年八月、被遊

御逝去候段相答候事

附 御歳相尋候はゞ、御拾三被為成

たる段相答

一 外に御男子尋上候はゞ、御一人被遊

御座候段相答候事

一 御歳尋上候はゞ、御三歳の段相答候事

御弟部相尋候はゞ、御一人破成御座

候段相答候事

一 右御名唐御名、御歳相尋候はゞ、玉川

王子尚慎、御歳貳拾貳と相答候事

一 總理大官御間柄の続相尋候はゞ、御從

御叔父の段相答候事

⑬

一 總理宮上に官人罷在候哉と尋有之候はゞ

不罷居段相違候事

一 鐘に相國の名号書入候を見候段申候は

總理官の事にて候由相答候事

一 琉球府官は何人罷在候哉と相尋候はゞ、

南山府、北山府、各一人罷在、中山府も

布政官罷在候付、府官逆は罷居不申

段相答候事

一 府官は何品官にて候哉と相尋候はゞ、從

二品と相答候事

一 上様唐御名尋上候はゞ、実成の通相答候事

國祖母様

國母様

御妃様御名尋上候はゞ、右通唱上候段

相答候事

一 右

御三所様御姓、并御歳尋上候はゞ、

⑭

國祖母様御姓毛、御歳御六十一

國母様御姓翁、御歳御五十五

御妃様御姓馬、御歳御三十一の段相答候事

一 御姫様尋上候はゞ、御両人の段相答候事

一 御夫人尋上候はゞ、不被成御座段相答候事

午七月

右心得書の儀、在番方へも格護にて、御用

可見合旨依仰此節写置候間、跡役へも

無傳失御次渡可被成候、以上

威豊四年寅

三月朔日

在番方

浦崎主親雲上 印

具志主親雲上 印

読谷山格親雲上 印